

## P11

小児患者保護者に対する齲蝕活動性試験導入の  
試み

○弘野美紀、奥猛志、井形紀子、切手英理子、  
大内山晶子、増山結、坂口知穂、新穂知子、  
久保麻美子  
(医療法人 おく小児矯正歯科)

### 【目的】

齲蝕は多因子疾患であるため、各要因を総合的に評価し、保健指導を行うことが齲蝕予防に有効である。当院では、患児の齲蝕活動性試験を行い、個々のリスクに応じた保健指導を行っている。

一方、小児の齲蝕減少のためには、ミュータンス連鎖球菌の定着時期を遅らせるなど、養育者への知識啓発が必要である。保護者が自分自身の口腔内環境を把握することは、子どもの齲蝕予防に繋がる。そこで、今回、患児のみでなく保護者に対する齲蝕活動性試験の導入を試みた。

### 【対象と方法】

対象は平成24年5月から7月まで、当院での齲蝕活動性試験を行った患児152名（1歳～11歳、平均6.6歳）ならびにその保護者（母親もしくは両親）である。

齲蝕活動性試験は、ステファナリシスを用いた。ステファナリシスは、安静時唾液pH（ORAL pH TEST）、カリオスタット値、唾液緩衝能（シーエーティー21バフ）、飲食の回数、年齢、フッ化物の使用状況の6つのリスク因子から、擬似的ステファンカーブを作成し、脱灰時間の割合を算出する齲蝕予防管理ソフトである。

患児へ齲蝕活動性試験を行う際、保護者に対して、主旨を説明し、保護者自身の齲蝕活動性試験を行うことを勧めた。

### 【結果】

#### 1. 齲蝕活動性試験を行った小児

齲蝕活動性試験を行ったのは、1歳児46名、2歳児22名、3歳児22名、4歳以上62名、合計152名であった。

#### 2. 齲蝕活動性試験を行った保護者

保護者が齲蝕活動性試験を行ったのは、1歳児20名（43.5%）、2歳児8名（36.4%）、3歳児3名（13.6%）、4歳以上2名（3.2%）、合計33名（21.7%）であった。



＜図1＞ステファナリシス

### 【考察】

齲蝕活動性試験を受けた保護者は、齲蝕活動性検査を行った小児の21.7%であった。年齢別では、1歳児43.5%、2歳児36.4%、3歳児13.6%、4歳以上3.2%であり、低年齢ほど、保護者が齲蝕活動性試験を行う頻度が高かった。ミュータンス連鎖球菌の母子伝播等について啓発するために、低年齢児保護者への本検査の導入は有効と考えられる。

また、保護者の中には6名の妊婦が含まれていた。妊婦に対しては、生まれてくる子どもの齲蝕予防だけでなく、低出生体重児と妊婦の歯周病との関係についても指導を行い、健やかな出産支援を行った。

今後は、妊婦を含めた保護者への保健指導システムを構築していきたい。

### 【文献】

- 1) 奥猛志、井形紀子、重田浩樹、山崎要一：新しい齲蝕予防管理ソフトの臨床応用 第1報 脱灰時間の割合と齲蝕罹患状態との関係、小児歯誌、2007年、45巻3号、p 419-423
- 2) 奥猛志、井形紀子、堀川清一、重田浩樹、山崎要一：新しい齲蝕予防管理ソフトの臨床応用 第2報 脱灰時間の割合と1年後の齲蝕発症との関係、小児歯誌、2008年、46巻3号、p 373-377